

同時通訳付き

スペクトラリスによる 新しい緑内障診断方法の提案

日時 4月4日(金) 12:15 - 13:15

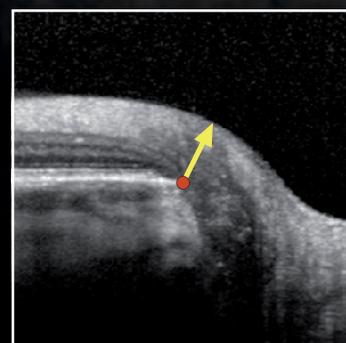
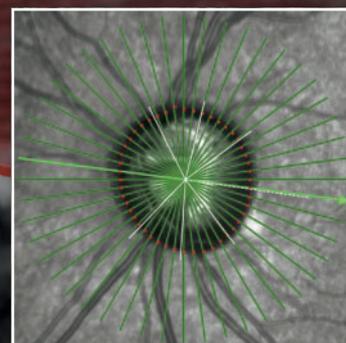
会場 東京国際フォーラム 第6会場、ホールD5

座長

富田 剛司先生

[東邦大学医療センター大橋病院眼科教授]

緑内障性視神経変化の重要な特徴として、乳頭陥凹の三次元的な拡大とそれに対応する乳頭辺縁部(リム)の狭小化(乳頭辺縁萎縮)および網膜神経線維層欠損が挙げられます。現時点では、これらの初期変化をとらえ検出するには、人間の眼による眼底の立体観察あるいは立体眼底写真による判断が最も精度が高いとされています。ところが、この立体観察では判断できない新たな視神経乳頭構造変化の評価法をスペクトラリスが提案しています。これは、長い緑内障診断の歴史上画期的なことであり、パラダイムシフトとともにブレイクスルーを予感させるものであります。キーワードは、「リム」です。皆さん、視神経乳頭のリムとはどこでしょう。その驚くべき解答が本セミナーで明らかになります。

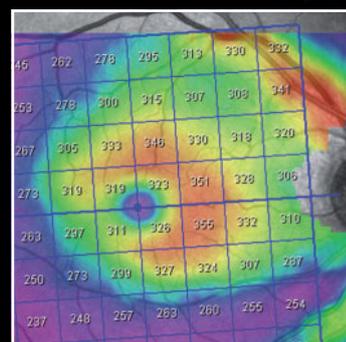


演題1

[Interpretation of the anatomy of the optic nerve head with SD-OCT]

Claude F. Burgoyne 先生

[Clinical Professor of Ophthalmology, Oregon Health & Science University]



演題2

[Enhancement of rim width measurements]

Balwantray C. Chauhan 先生

[Mothers Professor of Ophthalmology and Visual Sciences at Dalhousie University]

演題3

[緑内障診断に必要な黄斑層構造の理解 /
Understanding of macular layer structures for
glaucoma diagnosis]

板谷 正紀先生 [埼玉医科大学眼科教授]

**HEIDELBERG
ENGINEERING**



JFC Sales Plan Co., Ltd
株式会社JFCセールスプラン



ジャパン フォーカス株式会社
JAPAN FOCUS COMPANY, LTD.